

大会受付のオンライン化と大会参加費・予稿集価格の引き上げについて

講演企画委員会

1. 改革の必要性

春季・秋季大会の講演申込受付・プログラム編成・予稿集作成印刷といった仕事の多くは、講演企画委員のボランティア活動で賄われています。大会の運営についても、大会毎に関係各機関によって組織される大会実行委員会が担当し、やはりそのほとんどの作業が実行委員によるボランティアによって支えられています。その結果低コストでの大会運営が実現し、大会参加費など参加者の個人負担を安く抑えることができていました。

しかし、近年講演件数が急増し、2004年度秋季大会では500件を超えるなど10年前に比べ100件以上の大幅な増加となっています(第1図)。これに伴って講演企画に関連する事務作業量が増大し、講演企画委員によるボランティア活動のみではカバーすることが困難になってきました。また、講演数の増加に伴う大会規模の拡大や、国立大学等の独立行政法人化による施設使用料の高騰などによって、会場費・設備費などの負担も増えています。

一方、昨今のIT技術の進展に伴い他の多くの国内・国際学会の大会運営管理がオンライン化されてきており、気象学会についても大会運営の効率化や会員の利便性の面からその導入への要望が高まっています。しかし、それにはサーバーの構築や維持・管理などに新たなコストや労力が必要となります。

そこで講演企画委員会では、大会運営を円滑化・効率化するとともに上記の事務労力の軽減を図るため、
 ・大会講演受付のオンライン化と外部委託
 ・大会参加費・予稿集価格の引き上げ
 を柱とする改革を検討してきました。その結果、2005年3月の理事会で以下の改革案が承認され、2006年度から実施することになりました。

2. 改革の概要

(1) 講演申込のオンライン受付

2006年から、大会講演の申込は原則としてインターネットで行って頂きます。予稿集原稿はPDFファイルで送信することになります。なおこれらの方法をとれない方は、従来通りの紙による申込みもできます。

大会講演を申し込む際には、同時期に大会参加費(下記参照)を納入して頂きます。納入方法としては銀行振込かクレジットカードが利用できます。

大会講演のオンライン申込や前納参加費の受付事務は外部委託します。一方、大会プログラムの編成は従来通り講演企画委員会が行います。また、大会の運営(会場の設営、大会当日の受付等)もこれまで通り気象学会内の担当機関で構成される実行委員会が行います。ただし、会場で使用される名札の作成等、一部の仕事は業者委託に含まれます。

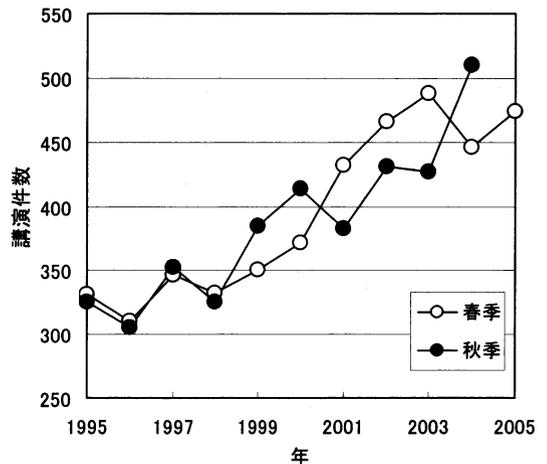
(2) 大会参加費の改定

2006年から、大会参加費を以下の2種類(3段階)とします。

- ・講演者：8,000円 大学・研究機関の職員(院生・学部生は除く)
- 5,000円 それ以外の方(院生・学部生・非研究機関(官庁・教員・民間企業など)所属)

講演者の参加費はすべて前納とします。

- ・聴講者(講演をしない方)：
- 3,000円(前納者)
- 4,000円(大会当日会場払い)



第1図 大会講演件数の推移

非会員については、従来通り共著者に会員が含まれることを条件として講演を認めることとし、その参加費は会員と同額とします。しかし、これは短期滞在の外国人や他分野の研究者による単発的な研究発表を想定した処置であり、継続的に大会発表を行う方には会員になって頂くよう強く望みます。

(3) 予稿集価格の改定

2006年から、予稿集を1部3,500円(税込み)とします。

なお予稿集の電子化も検討しましたが、新たに相当額の経費増が見込まれるため、当面は従来通り冊子として発行します。

これらの改革において、講演オンライン申込みの外部委託のため約200万円の経費が必要になります。その他、大会実行経費の高騰に対応するため、計300万円程度の支出増が見込まれます。大会参加費と予稿集価格の引き上げに伴う増収により、これらの支出増をほぼ賄うことができるものと考えております。

以上、会員の皆様には負担増をお願いすることになりますが、何卒事情をご理解頂きますようお願い致します。

なお2005年度秋季大会(神戸, 11月20~22日)については、講演申込方法、大会参加費、とも従来通りです。



一覧表

「気象に関する懸賞論文」募集のご案内	346
「サイエンスキャンプ2005」参加者募集	358
日産科学振興財団2005年度「理科・環境教育助成」の募集のお知らせ	430